

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報第4号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第4号

平成29年7月3日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が5.3%, 発病度が0.1で, 平年(12.2%, 0.5)に比べやや低い。

(2) 6月29日発表の1か月予報では, 期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生の多い圃場では, 薬剤の登録内容を確認の上, 粒剤の場合は出穂10日前までに, 液剤の場合は出穂直前までに防除を行う。また, 出穂後曇雨天が続いた場合は, 穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では, 発生圃場率が15.8%で, 平年(6.6%)に比べやや高いが, 発病株率は0.8%と, 平年(1.4%)に比べやや低い。

(2) 6月29日発表の1か月予報では, 期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では, 発生圃場率が31.6%, 株当たり虫数が0.03頭で, 平年(32.9%, 0.05頭)並の

発生である。

(2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 箱施薬殺虫剤は、残効性に優れるものでも施用後約2か月でその効力はほぼ消失する。
- (2) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

斑点米カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、19地点のうち13地点で生息を確認した。捕獲地点率が68.4%で、平年(71.2%)並の発生であるが、1地点あたりの捕獲虫数は4.8頭で、平年(8.5頭)に比べやや低い。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

普通期水稻

葉いもち

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.9%、発病度が0.2)。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生状況に十分注意し、曇雨天が続き上中位葉へ病斑の進展が見られる場合は、薬剤散布を行なう。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が37.5%で、平年(15.2%)に比べ高いが、株当たり虫数は0.03頭と、平年(0.01頭)並の発生である。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が56.3%で、ほぼ平年(88.1%)並の発生であるが、被害度は1.6と、平年(5.4)に比べやや低い。
- (2) 6月のフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は、平年並から平年よりやや少なく誘殺された(図1)。また、シロイチモジヨトウの誘殺数は、6月1半月以降平年に比べ多く誘殺された(図2)。

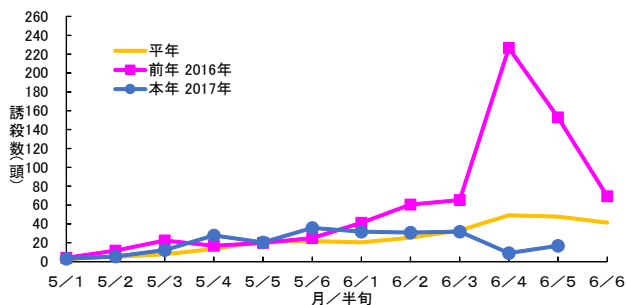


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)

* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

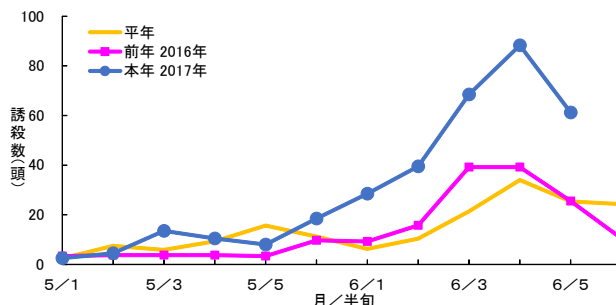


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)

* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

- (3) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫期に徹底防除を図る。

ハダニ類 (6月30日付で注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が81.3%で、ほぼ平年(65.9%)並の発生であるが、寄生葉率は36.5%と、平年(13.9%)に比べ高い。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

II. 果樹

カンキツ

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月前半の巡回調査では、発生圃場率が31.3%、春葉の発病度が0.06で、平年(33.4%, 0.06)並の発生である。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) ミカンハモグリガなどの害虫の食害痕は病原細菌の侵入門戸となるので、ミカンハモグリガの駆除に努める。
- (3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月前半の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%, 寄生葉率が 3.9%で, 平年(34.2%, 4.6%)並の発生である。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では, 期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 葉裏まで薬液が十分かかるよう, 丁寧に薬剤を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が 8.9%, 発病葉率が 0.1%, 発病果率が 0.0%)。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では, 期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病原菌は, 25℃以上では発生が抑制されるが, 降雨が多いと感染が拡大し, 夏期でも発病するため, 本病発生圃場では, 薬剤による追加防除を行う。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が16.1%, 寄生葉率が 1.1%)。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では, 期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 葉裏や徒長枝にも十分な量の薬液がかかるよう散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 勝浦町および上板町の子察灯へのツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシの誘殺数は, とともに平年に比べやや低く推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
6.1	16	0	29	154	39	1	0	34	116	21	1	0	34	116	21
6.2	92	29	69	355	90	14	0	36	130	24	14	0	36	130	24
6.3	20	24	185	123	108	2	1	13	20	22	2	1	13	20	22
6.4	44	22	107	252	192		3	1	12	20		3	1	12	20
6.5	76	9	191	236	119		3	25	24	13		3	25	24	13
6.6		1	100	144	78		2	11	24	10		2	11	24	10
7.1		7	51	31	41		2	6	88	12		2	6	88	12

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
6.1	0	0	7	42	11	2	3	38	30	9	2	3	38	30	9
6.2	2	4	0	116	13	10	0	3	55	13	10	0	3	55	13
6.3	3	4	39	52	29	1	1	4	16	8	1	1	4	16	8
6.4	1	1	25	19	21		9	2	14	13		9	2	14	13
6.5	10	7	22	20	25		2	10	24	19		2	10	24	19
6.6		0	57	48	34		2	14	89	26		2	14	89	26
7.1		1	45	164	35		1	13	69	23		1	13	69	23

(2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林、特にサクラやキリ等から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病葉率が0.3%で、平年(20.1%, 2.1%)に比べやや低い。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、産下卵発生圃場率が44.4%、100葉当たり産下卵率が0.9で、平年(55.6%, 1.3%)並の発生である。
- (2) 6月のフェロモントラップへの誘殺数は、6月3半旬より増加し、6月5半旬には平年よりやや多く誘殺されている(図3)。

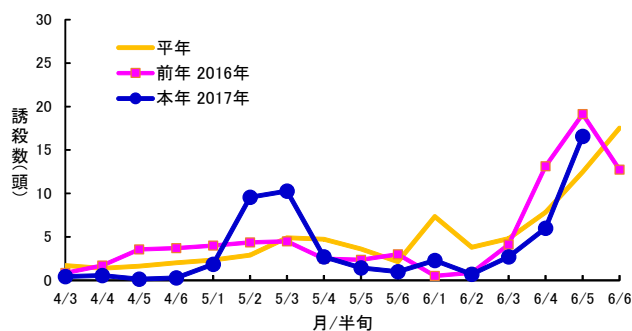


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移

※阿波市、三好市、東みよし町、石井町の7地点平均

(3) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実、花蕾)やせん定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期を狙って薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり、7月1～2半月には幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後ダラダラと常に多い状態となり、防除適期がつかみにくくなる場合もあるので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が17.2%、寄生新梢率が1.1%)。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が1.9%で、平年(42.9%、3.7%)に比べやや低い。
- (2) 6月29日発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているため、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。